

## 仙人通信 91 八高山 (832m)

八高山は大井川の左岸で、金谷・川根・森・掛川に囲まれた低いながらも一等三角点の山である。大井川鉄道の福用駅の駐車場に車を置いての約8kmのコースだ。

駅前を右折して40m程に登山口の標識があり、更に30m程茶畑を進んで白光神社を左折して、100m程進むと登山口となる。スタートは砂岩質の崖で樅・真竹に覆われた急坂である。岩肌にはコバノフユイチゴが小さな赤い実を付けて出迎えてくれた。10分程で尾根に出る。コウヤボウキの白い穂が秋に花を着けた様を連想させる。やがて運搬用のモノレールが茶畑に向かい平走する。尾根に出てから20分程で周囲を檜に囲まれた可愛い茶畑だ。さらに檜の林を10分進むと、南側は開けた尾根となり、日の光を浴びれど何か嬉しくなる。登山道は凹状の溝となり、鳥が運んだのであろう実生の茶が檜の下木だ。歩き初めてから65分程で「ナガラカコース」との合流となり、本格的な杉/檜の林となる。30cmを越える太い杉林のこぼれ日の中に赤い実を付けたミヤマシキミ・ヤブコウジが幻想的である。ほぼ平な道を500m程で林道に出る。南風が強く杉の梢を鳴らす音以外物音すらしめない。木漏れ日の杉木立で中、自分一人であることを肌で感じる。

先ほどの分岐点から30分程で小さな露地の馬王平である。「馬王平」とは居眠りをした修験者に白馬に乗った王が現れ、たしなめた事からの命名と金谷の観光協会の説明板がある。再び檜の木立となり、10分程で静岡放送の10m角の電波反射板が2枚現れる。昭和37年に資材を人力で持ち上げたとある。浜松と静岡の間に位置しテレビ放送に活躍したことが伺える。アンテナのフェンス沿いを廻ると杉の葉に似たホソバトウゲシバの群落に巡り逢えた。上越国境では良く見るがこの辺では珍しい。リンドウの葉が僅かに顔を出したりして、陽だまりの嬉しさだ。ツルグミ・ヒサカキ・アオキ・イワナンテン・ヒイラギ等の常緑樹が檜の下木で目に付く。このコースには地元の方が木々に名前札を付けてくださり、植物園のようだ。大きな木ではカゴノキ・コシアブラ・エゴノキ・カナクギノキ・ケンボナシ・樅等だ。やがて白光神社である。社は古くはないが、山岳信仰説と秦氏が祀たとの両説があり、「八高 白光」と勝手に納得した。神社の右手を廻り、馬王平から35分で赤く塗られた三角点がある山頂である。南側と北側の視界は木で遮られているが、愛鷹から雪で白く化粧した聖までが望める。今日は暖く霞んではいるが富士山も見事だ。

仙人通信で紹介した「山伏」「八紘嶺」「十枚山」「竜爪山」も確認できた。眼下では川根町を大井川が蛇行して絵になる。山伏の南の笹山から中川根を通り八高山を取り巻く、四万十層の内の三倉層を想像するのも夢がある。南西方向は晴れると浜名湖も確認できるとあるが、霞んで遠くに無線アンテナの山が限界である。30分程景色を楽しみ下山の途に着いた。ナガラカコースでは赤い南京豆程の実を付けたハナミョウガが印象的であった。

徒歩数 20150歩・所要時間 4時間 10分のノンビリハイクでした。(h 2 2 . 1 . 2 0)

山頂の三角点



富士山



聖岳

